

平成27年度受検動向調査の結果分析について

- 1 県内の全公立中学校の3年生1クラスを抽出して調査し、回答を得られたサンプル数は、9,851名分であり、平成27年3月の中学卒業者数51,752名の19.0%にあたる。
なお、各学校1クラスを抽出しての調査のため、学区ごとのサンプル数の割合が、学区ごとの卒業者数の割合と等しくなるよう、サンプルに比率を掛けて算出したものを併せて提示した。
- 2 前期選抜を受検した者は7,784名（7,775名）であり、全サンプル数の79.0%（78.9%）にあたる。そのうち、前期選抜で合格した学校へ進学した者は4,409名（4,313名）であり、前期選抜受検者の56.6%（55.5%）にあたる。（（ ）内は補正值。以下同じ。）
- 3 前期・後期ともに受検した者は3,137名（3,239名）であり、前期選抜受検者の40.3%（41.7%）にあたる。そのうち、前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は1,933名（1,952名）であり、前期・後期受検者の61.6%（60.3%）、前期選抜受検者の24.8%（25.1%）にあたる。
前期・後期で違う学校・学科を受検した者は1,204名（1,287名）であり、前期・後期受検者の38.4%（39.7%）、前期選抜受検者の15.5%（16.6%）にあたる。
- 4 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者の割合は61.6%である。
平成25年度アンケート結果の公立中学校長65.7%、公立高等学校長全日制62.7%に近い割合といえる。
- 5 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の61.6%（60.3%）であるが、第1～3学区の都市部が56.2%（56.5%）に対して、第4～9学区の郡部において68.9%（68.2%）とその割合が高くなっている。
また、前期・後期で違う学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の38.4%（39.7%）であるが、郡部が31.1%（31.8%）に対して、都市部において43.8%（43.5%）とその割合が高くなっている。
- 6 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、第8学区において91.4%（90.7%）と特にその割合が高くなっている。
- 7 第5学区において専門学科を受検する生徒の割合が高くなっている。
前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者（専門→専門）、全体8.2%（7.4%）に対して23.3%（23.3%）。前期・後期で違う学校・学科を受検した者（専門→専門）、全体1.8%（1.5%）に対して6.7%（7.0%）。

後期選抜受検前の予定と後期選抜の実際の受検動向について

